

長期構想とは？

港湾における長期構想とは、港湾利用者、市民、関係行政機関、学識者など、様々な港湾関係者の意見・要請をもとに、**20～30年後の長期的視点に立った港湾の目指すべき将来像やその実現に向けた港湾利用の基本的方向**を明らかにするものです。

三河港長期構想について

三河港の港湾計画は2011年に改訂しましたが、10年以上が経過し、その間、第4次産業革命の進展や経済の一層のグローバル化、少子高齢化の進行、脱炭素社会への移行、新型コロナウイルス感染症の蔓延など、**国内外の港湾や社会経済情勢を取り巻く環境が大きく変化**しています。

今回、このような社会経済情勢の変化や今後の動きに対応し、三河港が「強み」を活かしてこれからも地域の人々の暮らしを支えていくことができるよう、**おおむね30年後の将来像やその実現に向けた空間利用計画などを「三河港長期構想」として取りまとめました。**

■三河港の課題

物流

- 完成自動車の需要に対応したモータープールの確保
- 貨物の混在解消に向けたふ頭の再編・集約
- 新たな情報通信技術を活用した次世代の自動車・コンテナターミナル整備への対応
- 船舶の航行や荷役作業の安全性を阻害する冬季風浪への対応
- 物流の効率化に資するための新たな交通体系の構築
- 背後の産業及び広域交通網を活かした集貨・創貨
- トラックドライバー不足、物流の2024年問題及び燃料価格等の物価高騰を背景とした新たな内航定期航路開設に向けた対応

産業

- 次世代自動車産業に対応した基盤強化
- 新規企業立地への対応
- 進展する第4次産業革命への対応
- サキュラーエコノミーへの転換を見据えた対応

人流・交流

- みなとへの市民の更なる誘導や観光資源・施設間の回遊性の確保による魅力向上
- 人々が豊かさを享受できるような港空間の形成
- 豊富な観光資源を活用した観光地としての新たなブランド価値向上への対応
- 大型クルーズ船・大型プレジャーボートの誘致及び受入れ機能・体制の強化

環境

- 豊かな海の保全・再生に向けた環境施策の継続的な実施
- 良好な景観や海との触れ合いの場などの拡大
- 再生可能エネルギーの積極的導入のための支援
- 2050カーボンニュートラルへの対応

安全・防災

- 大規模地震に対する港湾機能の強化
- 高潮対策などの自然災害に対する港湾機能維持への対応
- 感染症拡大時における水際対策の強化

港湾運営

- 戦略的な港湾経営
- 主導的な役割を果たす港湾運営体制の構築

■三河港長期構想の基本理念

参考資料 1

「強み」を伸ばし、時代とともに
新たな価値を「創造」するみなと「三河港」



■三河港の五つの将来像と七つの目標



■目標と取組戦略

目標1【物流】

最新の情報通信技術の導入・活用による物流の効率化の実現

- 完成自動車AIターミナルの形成及び共同輸送による効率化
- 革新技術を導入したコンテナAIターミナル形成
- DX（デジタルトランスフォーメーション）を加速させ、更なる物流の効率化・安定化による三河港の競争力強化



目標2【物流】

三河港の地理的優位性及地域産業、広域交通網を活かした背後圏の拡大

- 三遠南信地域も脱んだ背後圏の拡大
- 農林水産物の輸出促進による港の利活用、臨海部における保管機能等の強化
- RORO船を活用した海上輸送ネットワークを構築、情報通信技術の導入による次世代高規格ユニットロードターミナル形成

広域交通ネットワークを活かした
背後圏拡大・農林水産物の輸出促進



目標3【産業】

自動車産業の持続的発展と次世代産業の創出

- 電気自動車、燃料電池自動車などの次世代自動車の受入れを見据えた基盤の強化
- CASE、MaaSなど、新たな車（移動）サービス提供推進の支援
- 航空宇宙産業やドローン関連産業などの次世代産業の創出
- ふ頭間及び背後の広域幹線道路とのネットワークの形成
- カーボンニュートラルポートの形成
- サーキュラーエコノミーの拠点形成



目標4【人流・交流】

豊富な観光資源の活用・連携による交流機会の増大

- MaaSなどの移動サービスによる回遊性の向上、観光地としての魅力及び集客の向上
- 国内外のクルーズ船や大型プレジャーボートの受入機能や体制の強化、地域経済の活性化、地域のブランド化
- 観光情報の一元化、多言語対応など高い水準のサービス提供
- 港湾緑地（公園）などの親水空間の配置による港の魅力向上
- 三河港の強みである自動車産業などを観光資源（工場見学など）、教育資源として活用



目標5【環境】

かつての豊饒な宝の海を取り戻す

- 干潟・浅場や藻場の造成を中心とした豊かな海の保全・再生に向けた環境施策の継続的な実施
- 多様な海岸線や海域の良好な景観・水底環境が保たれた海との触れ合いの場などの拡大
- 豊かな海の保全・再生に資する新技術の導入
- 産学官や住民、NPOなど多様な主体による協働・連携

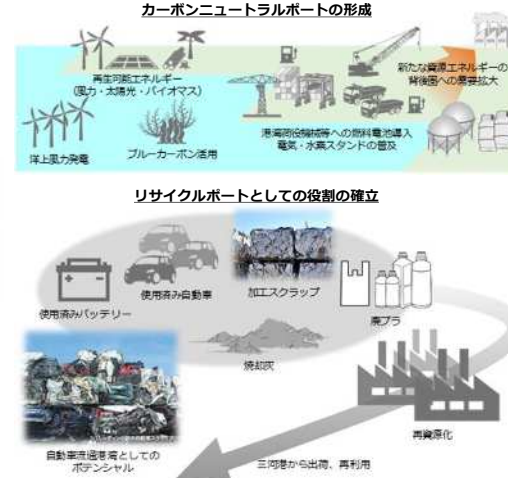


環境学習の場としての三河湾の利用

目標6【環境】

地域の自然・産業を活用した環境にやさしいみなとづくり

- 脱炭素化に向けた風力発電・太陽光発電などの再生可能エネルギーの積極的な導入支援、「カーボンニュートラルポート」の実現に向けた新たな資源エネルギーの受入拠点の形成及び背後圏への需要拡大
- サーキュラーエコノミーの拠点となるリサイクルポート（総合静脈物流拠点港）としての役割を果たすことによる、循環型社会実現への寄与



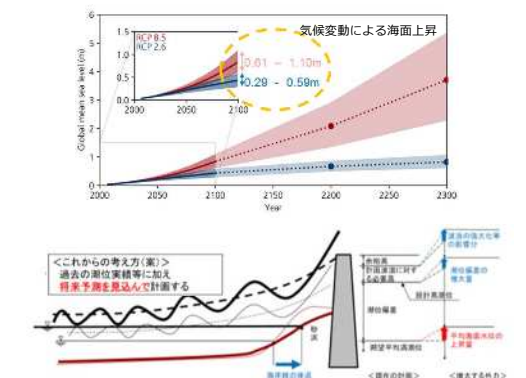
目標7【安全・防災】

様々な災害から地域を守る強靱なみなとづくり

- 耐震強化岸壁の整備、情報通信技術の積極的な導入による住民の安全・安心の確保、早期の地域復興支援
- 日頃から関係機関が一体となった防災対策
- 港背後の災害対策基地との連携による地域防災拠点の形成
- 頻発化・激甚化する地震・津波・台風・高潮といったあらゆる自然災害に対応した防波堤の整備や堤外地などにおける防災対策の強化
- 気候変動に伴う海面の上昇や台風の強大化に対して官民が連携して対策を進める「協働防護」の推進
- 感染症拡大等における関係機関が連携した水際対策の強化



災害の頻発化・激甚化、気候変動に対応した
港湾施設の機能強化

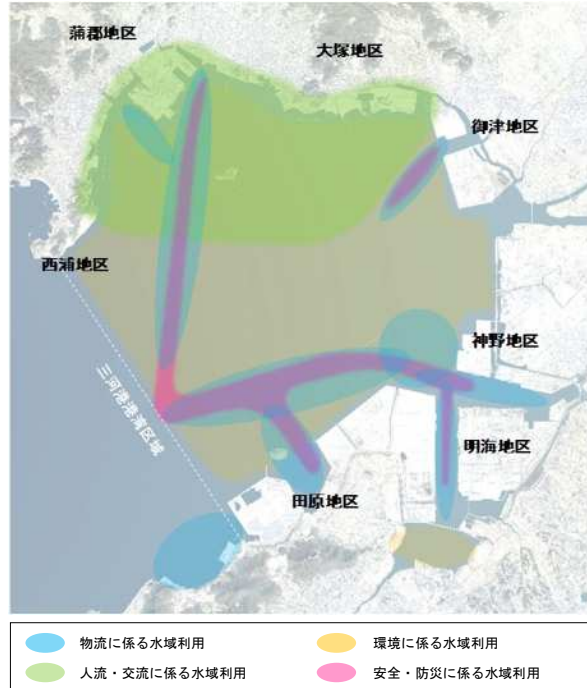


協働防護のイメージ図

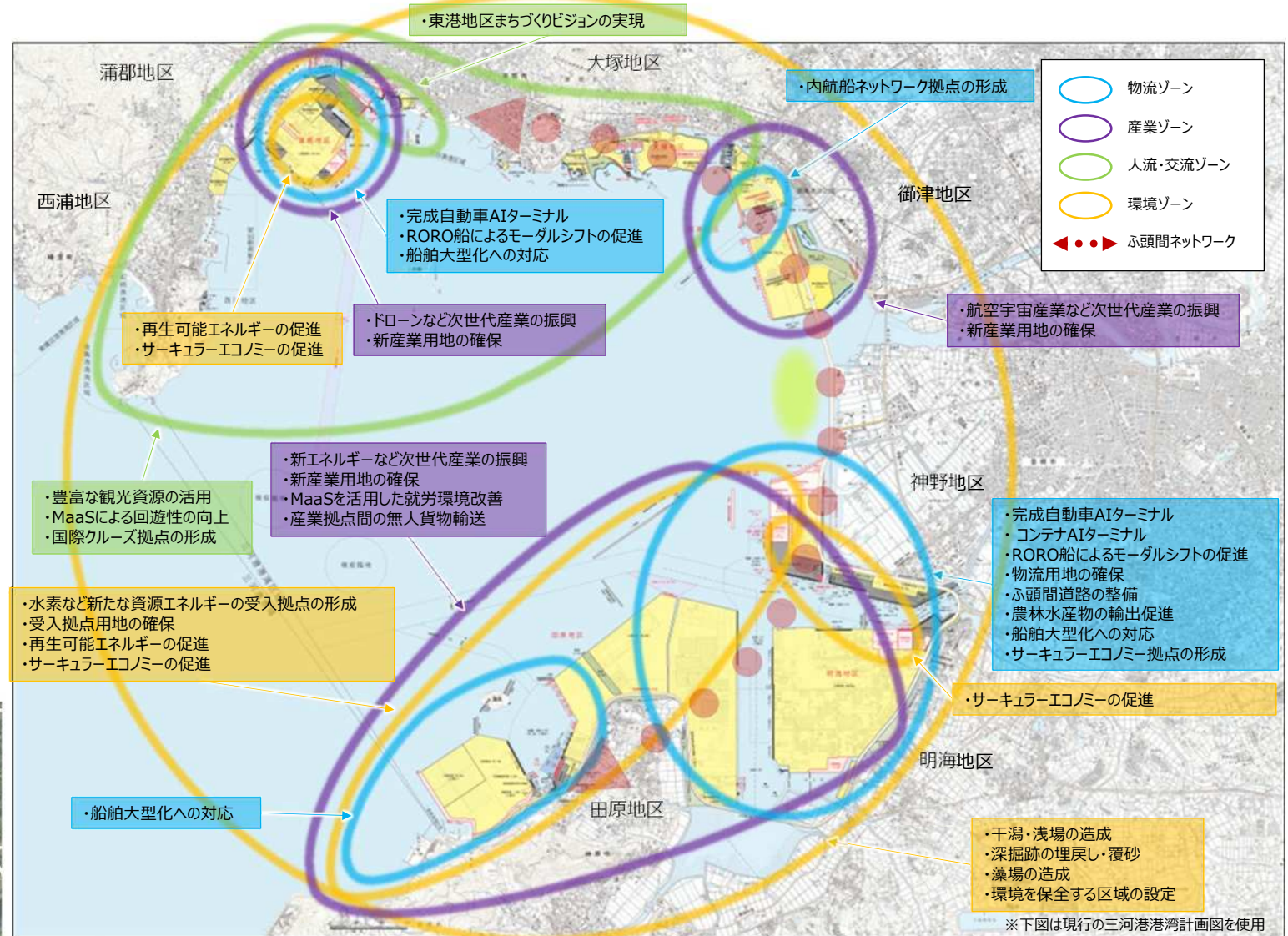
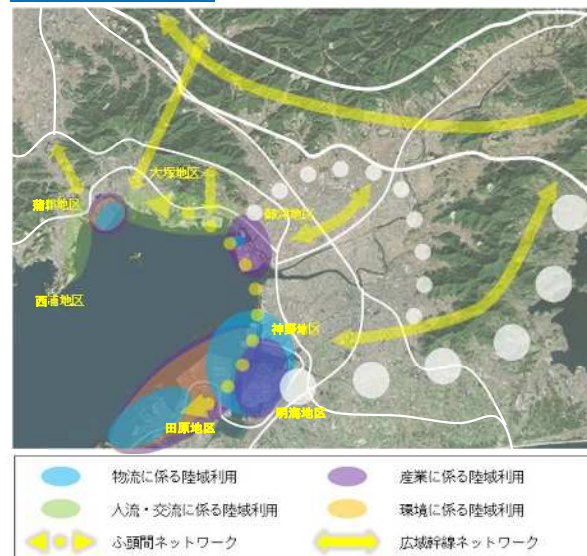


■空間利用ゾーニング

水域利用の視点



陸域利用の視点



- 物流 -
新たな国際・国内海上輸送に対応した競争力のあるみなと

- 産業 -
地域産業の持続的発展に資するみなと

- 安全・防災 - 市民や地域産業の安全・安心を支えるみなと

- 人流・交流 -
人々を海へと誘う魅力あるみなとまち

- 環境 -
港湾利用と地域・自然環境が共生・調和するみなと

四つの将来像を確実に実現するため、港全体で**安全・防災**を確保します。